

に有意差が認められた。皮脂厚の大きい人では小さい人に比べて、より低い衣服下気温によって快適でありうることがわかった。ちなみに、体表面積 1 m^2 当りの着衣重量は皮脂厚の大きい人では平均 446 g 、皮脂厚の小さい人では平均 604 g であった。

3) 皮脂厚の大きい人での軀幹部皮膚温の平均ならびに標準偏差は $33.4 \pm 0.5^\circ\text{C}$ 、皮脂厚の小さい人では $35.0 \pm 0.4^\circ\text{C}$ であり、両者の間に有意差が認められた。

C—35 衣服に関する衛生学的研究(第3報) —冬期快適な衣服下気温と皮脂厚—

大阪教育大 奥窪 朝子

1. 前報において冬期着衣量の顕著な個人差を支配する要因の一つとして皮脂厚があげられることを述べた。本報では、皮脂厚の大きい人と小さい人での着衣量の差を衣服下気温より考究する。

2. 冬期、快適であると訴えた成年女子の衣服下気温、皮膚温、皮脂厚ならびに着衣重量を測定し、検討を行なった。被検者は健康な女子大学生 65 名である。

3. 1) 快適な状態の着衣条件のもとで、軀幹部衣服下気温は $30.0 \sim 34.2^\circ\text{C}$ の範囲にあり、従来 of 成績に比べてその範囲は広い。軀幹部皮膚温は $32.6 \sim 35.5^\circ\text{C}$ であった。

2) 皮脂厚の大きい人(10 mm 以上)での衣服下気温の平均ならびに標準偏差は $31.3 \pm 0.7^\circ\text{C}$ 、皮脂厚の小さい人(6.5 mm 以下)では $33.3 \pm 0.5^\circ\text{C}$ であり、両者の間